

NEWS RELEASE



セブン&アイ HLDGS.

株式会社 セブン-イレブン・ジャパン

2007年10月10日

～プラスチック原料を年間に約570t削減～ 弁当の包装形態を“ラップ包装”から『テープ止め』に変更 -食材内容が鮮明になり、弁当の見易さ、選びやすさも向上-

株式会社セブン-イレブン・ジャパン（東京都千代田区、代表取締役社長 最高執行責任者<COO>山口 俊郎）は、環境負荷の低減および弁当の見た目や選びやすさの向上を目的に、本年11月以降順次、セブン-イレブンで販売する弁当の包装形態を“ラップ包装”から『テープ止め』に順次変更いたします。

包装形態の変更を進めるにあたり、本年3月よりテストを重ねてまいりました。配送中の荷崩れや売場での安定陳列等に対応する為、容器の変更やテープの改善を行った上で、このたびの弁当簡易包装の実現にいたりました。現在一部エリアで実施しているテスト結果を踏まえ、07年度中にはセブン-イレブン全店（9月末現在11,837店舗）での導入を予定しております。

これにより、プラスチック原料を年間に約570t削減することが可能になり、レジ袋に換算すると現使用量の約5%削減と同等の効果が見込まれることになります。

セブン-イレブン・ジャパンでは、環境問題対策等の社会的責任を遂行するとともに、安全・安心を第一とした商品開発を推進してまいります。



＜変更前＞
ラップ（フルシュリンクラップ）包装

＜変更後＞
テープ止め のみ

＜新包装形態の弁当について＞

◇内 容 弁当の包装形態を、現状の“ラップ（フルシュリンクラップ）包装”から『テープ止め』へ変更

◇目 的 ○環境負荷を低減
○弁当の見易さ、選びやすさとともに、手作り感、できたて感を訴求
○“コンビニ弁当はゴミが多い”というお客様のイメージを改善

- ◇対応事項
- ①容器・テープの構造を改良
⇒レンジアップした際に蒸気を逃がす蒸気弁、フタと容器を止めるテープの構造を見直すことで、密閉性を確保
 - ②フタと容器（受皿部分）の構造を改良
⇒フタと容器のかみ合わせ部分の構造を改良し、密閉性を向上
 - ③弁当容器のフタと底面の形状を変更
⇒容器のフタと底面に凸凹をつけ、上下がかみ合うように容器することで、配送効率を改善し、売場での陳列のし易さを追求
 - ④配送時の工夫
⇒弁当と弁当の間におにぎりを挟む等、弁当配送用ケースへの詰め方を工夫し、安定感のある配送を実施

◇環境負荷低減

○今回の取り組みにより年間約570tのプラスチック原料を削減
レジ袋5%削減と同一効果に

◇今後の展開 2007年度中にはセブン-イレブン全店での展開を予定
⇒11月以降、順次展開予定
※現在、山梨県・千葉県の房総エリアの合計約370店舗でテスト展開を実施

以 上